

## 2021 年度第 3 四半期 決算説明会 Q&A

登壇者：代表取締役社長 中島 規巨

取締役常務執行役員 コンデンサ事業部 事業部長 石谷 昌弘

取締役常務執行役員 経営管理グループ統括部長 南出 雅範

### 【業績概要・見通し】

Q. 第 3 四半期の生産高実績と第 4 四半期の生産高見込みを教えてください。

A. 第 3 四半期の生産高実績は 4,860 億円、第 4 四半期の生産高は 4,090 億円を想定しています。

Q. 7 月時予想の売上高を 400 億円上方修正したことに対して生産高はどのような数値になりますか。また、値下げが緩やかであることはどのように影響していますか。

A. 7 月時予想に対して、売上高の増加が 400 億円、生産高の増加が 850 億円となっており、売上高以上の生産高の増加を見込んでいます。また、値下げが緩やかになったことにより 370 億円の増益要因となっています。詳細は説明会資料の 23 ページ目に記載しておりますので、ご覧ください。

Q. 第 2 四半期の決算説明会の際には、足元で多少弱含む動きがあり、生産高を今後どのようにしていくかを見極める状況にあるという説明がありました。第 3 四半期の実績は非常に堅調に推移していますが、用途・分野でどのような変化があったかを教えてください。

A. 第 3 四半期は、コンピュータ及び関連機器向けで売上が落ちると見込んでいましたが、実績では引続き堅調に推移し、代理店からの取り込みも強い状況となりました。また、為替が円安に進んだことや値下げが緩やかだったこともあり、売上高と生産高が増加しています。現時点では、引き続きサプライチェーン上の制約が不安要素としてあるものの、最終需要は強いということで、第 4 四半期も来期以降の需要に備えてしっかりと生産し、必要な在庫を積んでいきたいと考えています。

Q. 説明会資料 18 ページ目の需要前提のスライドに関する質問です。7 月時予想に対して台数が変化していますが、売上と台数の動きに乖離がみられる点について、どのように考えればよいでしょうか。足元でサプライチェーンの考え方が変わり、BCP の観点をに入れて在庫を持つという考え方に変わっていると認識しています。セットの生産台数と部品需要の関係はしばらく崩れるという理解でよいでしょうか。

A. 2021 年度上期は、実需として見込む数量と当社への引き合いにアンバランスが発生していた状態でした。BB レシオからも見て取れるように、下期からは実需見合いになっている状態であり、BCP 在庫の水準は引き上げられたままであるため、しばらくはこの状態が続くと見えています。また、為替が円安に進んだことや ASP の上昇もあり、セット台数の動きとは逆に売上高の修正はプラスに動いています。PC については、7 月時予想では微減になると読んでいましたが、巣ごもり需要の継続もあり、昨年度と同等レベルの受注をいただいている認識です。

Q. 中華圏のスマートフォンの在庫調整が長引いている要因は販売不振によるものでしょうか。

A. コンデンサ等の部品の市中在庫が増えているという状況ではなく、実需見合いになっている状況と捉えており、現在の状況は景況感の悪化から、実際にスマートフォンの販売台数が落ち込んでいることによるものと考えています。従前は、新機種が出るタイミングを 1 月以降と想定し、第 4 四半期以降には回復するものと考えていましたが、少し遅れており、夏前頃から新機種に置き換わっていくと考えています。それに応じて、需要も増加していくと予測しています。

Q. 中期計画においては、2024 年度に向けて売上高を年率 5%伸ばすという計画を示されていますが、来年度に向けて 1 層目（コンポーネント）と 2 層目（デバイス/モジュール）に分けて、現時点でどのような見通しを持たれていますか。

A. 2022 年度の全体感としては中期方針 2024 の想定どおり 5%程度の売上成長は見込めると考えています。お客様の在庫水準が少し上がっていて 2021 年度が良い経営成績であるため、業績の発射台が上がっているという事実がありますが、1 層目については、工程負荷ベースの+10%というところまで、何とか伸ばしていきたいと考えています。2 層目については、例えば 5G のミリ波がマチュアになる等、プラットフォームの大きな変更のあるときにチャンスであり、シェアが大きく塗り変わる機会になります。そのような機会が 2022 年度は中華圏市場であり、そこでシェアを伸ばして全体で 5%以上の成長に結び付けたいと思っています。

Q. 来年度は、コンデンサやその他コンポーネントでの成長はあるが、モジュールセグメントは少し改善という程度で、大きな成長ドライバーとしては見ていないというイメージでしょうか。

A. はい、その見立てです。

## 【コンデンサ】

Q. 第4四半期のカーエレクトロニクス向けの売上が前四半期比で10%減少する見通しですが、自動車の生産台数はどのような前提でしょうか。併せて、自動車向けのコンデンサの価格が1月から改定されているかどうか教えてください。第3四半期と比較した値下げ影響を50億円と見込まれており少額であるとの印象です。値段はそこまで下がるなという理解で間違いないのか確認させてください。

A. 第4四半期のカーエレクトロニクス向けの売上は、半導体の供給制約等を含めて、季節的にも自動車の生産が低い時期ですので、第3四半期比で減少すると考えていますが、春に向けて回復を見込んでいます。Tier1様向けの価格は、年間の価格改定により1月から新価格に移行しています。大手のお客様との交渉の結果、一定の値下げを実施していますが、円安の効果もあり想定よりも小幅な値下げにとどめられている認識です。第4四半期のセットメーカーの生産台数は、第3四半期から大きく変わらず横ばいで見えており、第4四半期のカーエレクトロニクス向けの売上は、実需見合いになると考えています。第3四半期の売上高が前四半期比で少し落ちているのは、サプライチェーン上の制約があったためと捉えています。

Q. コンデンサの月次受注の動きを教えてください。また、第2四半期の決算説明会の際には、第4四半期は生産が少し落ちると見られていたと思いますが、今は高水準の稼働を継続する計画になっており、これが上方修正の要因になっています。そのように判断を変更された理由を教えてください。

A. コンデンサの第3四半期の受注は、10月が前月比で5%から10%程度のマイナス、11月が前月比で5%から10%程度のプラス、12月が前月比で0%から5%程度のプラスです。1月の受注は、進行月度で数値の不確実性もあるため、コメントを差し控えさせていただきます。第4四半期のコンデンサの市場環境は、前回の決算説明会から大きくは変わっていません。中華圏のスマートフォンの生産調整が若干長引きますが、それ以外の市場は季節性を考慮すると、それほど悪くない状態です。来年度以降の需要の拡大、コロナからの回復や半導体不足による生産制約の収束を睨んだ場合、供給の準備をしておくべきと考え、在庫を積み上げて来年度に向けた対応を取っています。半導体不足の動向等に影響を受けますが、しっかりと準備をして来年度を迎えたいと思っています。

Q. 来年度の業績のモメンタムを考える上で、コンデンサの成長率や来年度に向けた目線を確認させてください。7 月時予想に対して生産高は上振れています、在庫積み増しや代理店の部品取り込み、ハイエンドスマートフォンの需要好調によって売上が増えたので、その分在庫を積み増すという考え方でしょうか。あるいは、4-6 月に向けてもかなり強い引き合いを受けているので、高水準の生産を続けるという考え方でしょうか。

A. コンデンサの受注は、季節性等を考慮すれば、それほど悪くないという印象です。現在、工場ではフル操業により在庫を積み上げるという活動を続けています。最終需要が様々なアプリケーションで非常に強いことや、お客様における足元の生産制約は半導体不足等に起因しており、それが解消に向かうことで需要も応分に回復すること、その中で需要がジャンプアップするアプリケーションも出てくることを想定して、しっかりと供給体制を整えてきたいと考えています。また、自動車向けは、サイズが大きく生産負荷の高い製品の需要が高まっています。そのような急峻な需要拡大に応えることが難しい製品は、しっかりと在庫の準備をし、安定した供給ができる体制を取っていききたいと考えています。これらを総合的に勘案し、コンデンサ全体としてフル生産を継続して在庫を一定数積みみたいと考えています。

Q. 今年度は在庫積み増しによる稼働益がかなり出ていますが、来年度もコンデンサは増収増益になる市場環境でしょうか。

A. 2021 年度上期の需要に BCP 等を含む在庫の積み上げが一定数あったことは事実です。しかし、下期に入ってそのような需要はおおよそなくなって、実需見合いの取り込みになっていると考えています。品種構成では自動車等の比較的単価の高いものが増え、ASP を維持できていることが業績に効いています。来年度の見通しは、今の段階でまだ予算策定ができておらず、はっきりとは言えませんが、新型コロナウイルスや半導体不足による生産制約からの需要回復をしっかり取り込んで、ステークホルダーの皆様の期待に応えられるようにしていきたいと考えています。

Q. 2021 年度のコンデンサの売上は前年度比 22%増の見通しですが、中期的に見てコンデンサ市場の伸びや売上成長がどの程度になると予想すべきかヒントをください。

A. コンデンサの生産能力の増強ペースは従前からお示しのとおり、生産能力負荷ベースで年間 10%程度を当面継続していく計画であり、ポートフォリオをより良化させていく方向に能力や資源を割り当てていきます。価格は同業各社も積極的な生産能力拡大を図っており、中長期的には激しい競争が続く前提ですので、我々のポジションを維持、強化するための一定の価格改定は実施していくべきと考えます。値下げは精査し、ポートフォリオの改善をして良い形に持っていきたいと考えています。

## 【モジュール】

Q. ハイエンドスマートフォン向けの高周波モジュールについて、来年度のシェアの見立てを教えてください。また、モジュールセグメント全体として来年度の成長をどの程度で見ているかについても教えてください。

A. 個別のお客様について詳細な話はできませんが、ハイエンドスマートフォン向けについては、星取表で見た場合に2021年度より採用数は少し上向いていますが、我々が想定したところまで引き上げることはできていない状況です。特定のコンペティターに少しでも特性面で勝つことが必要ですが、今年は少し負けのほうが多いという状況です。特性面で最後まで出し切れなかった部分がありますし、2021年度の採用状況が非常に悪く、2022年度に大きなプラットフォームの変更がないため、多くのモジュールを入れ替えることが少し難しかったと思っています。ハイエンドスマートフォン向け以外では、中華圏のスマートフォン向けは恐らくメディアテックの新しいプラットフォームが立ち上がってくる夏前ぐらいには、大きな需要につながるとしており、それらの需要をきっちりと取っていきたいと考えています。

Q. 来年度以降のメトロサークについてどのような変化が期待できるかを教えてください。また、単価引き下げによるメトロサークの顧客拡大は、期待できますか。

A. 基本的にはミリ波が増えたり、UWBの機能が載ることで、員数が増えると考えています。また、自助努力でのコストダウンや特性改善を進めていくことにより、今以上に広く使われるものになりつつあると感じています。単価自体は少しダウントレンドですが、員数が相当増えると見ており、5Gのミリ波やUWBに対するニーズを獲得していきたいと思っています。また、コストダウンによって単価を引き下げることにより、既存のお客様以外のお客様でも徐々にご採用頂いていると考えています。

Q. 昨今の5Gのトレンドについて、アメリカで基地局の電波干渉の問題があり、5Gの普及に少し懸念が広がっている状況で、高周波モジュールの性能が問題になっていると認識しています。端末側においては、Sub6はバンドのエリアも狭く、干渉の問題等もあり、フィルタやPAの高い技術が必要な領域と考えております。そのような5Gのハードウェアの変化が今後どのように出てくるのか、あるいは今の問題は深刻で5Gの普及が少しトーンダウンするのか、技術をもって少し変化が出てくるのかを教えてください。

A. 航空機との干渉の問題は、ある程度深刻に受け止めていますが、具体的な技術的原因解明まで至っていないと認識しています。非常に広い帯域の中で、メリハリをつけて使う必要が出てくると思いますので、フィルタやPAの性能がデバイス向けには、今後相当高いものが要求されてくると考えています。周波数の混み具合から、今回のような問題は元々ある程度予測しており、フィルタ技術等で優位性を出せるように取り組みを強化して進めています。これまでの要素技術への投資が優位に働きかけになると考えています。

以上

当 Q&A に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当 Q&A に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。